

「小さな拠点づくり」とは

島根県では、少子化や高齢化の影響で、県全体で人口が年間約5千人減り続けています。特に県土の約9割を占める中山間地域では、2010年からの20年間で人口の約1/4が減少すると予測されています。

人口減少が進む中でも、中山間地域で安心して暮らし続けるために、県と市町村は連携して「小さな拠点づくり」を進めています。

地域の「未来」をみんなで話し合い、そして実行する。

それが「小さな拠点づくり」です。

始まっています！



お住まいの地域でこのような課題はありませんか

- 一人暮らしのお年寄りの暮らしが心配
- 災害が起きた時、一人暮らしのお年寄りの避難が心配
- バス停が遠くて通院や買い物が大変
- いつまでも健康で自分の家に住み続けたい



「小さな拠点づくり」の進め方

- STEP1 まずは地域の現状を知りましょう
- STEP2 地域の課題を住民の皆さんで話し合い、認識し、課題解決の取り組みを計画としてまとめましょう
- STEP3 役割分担を決め、出来ることから実践活動を始めましょう

※県にご連絡いただきますと「小さな拠点づくり」の説明に伺います。
お気軽にお問い合わせください。

地域の取り組み紹介（第4回）

自主防災

あよう
雲南市大東町阿用地区

美しい景観と住民のつながりを守る

雲南市は、合併後の2005年から、おおむね小学校校区ごとの各地域で、地域自主組織の設立を推進。地域の課題解決を行政に任せず、住民が主体的に地域づくりに取り組んでいます。

阿用地区では、2005年に地域自主組織「阿用地区振興協議会」が発足。地区振興計画を策定し、旧公民館の交流センターを拠点に「阿用の美しい景観を守り地区民のつながりを大切に健康で心豊かな阿用を創造しよう」を合言葉に、いつまでも住み続けられるふるさとづくりを進めています。

そのような中、今年度「みんなで守り育てるしまねの道と川の愛護活動表彰」の河川・砂防部門表彰を受けるなど、夏にはホテル舞う豊かな自然の阿用川や、美しい田園風景の維持に地域一体で取り組んでいます。

阿用地区のもう一つの大きな特徴が防災活動。振興協議会が推進役となり、2015年から2年をかけて地区内全ての16自治会単位で自主防災組織を構築、それぞれ独自の防災計画を策定し「自主防災体制の確立」を目指しています。振興協議会事務局次長の山本英利さん（65歳）は「避難所開設など実践の積み重ねで住民理解が深まり、同時に課題も見えてきた」と今後を見据えています。

【阿用地区のデータ】

人口 1,189人

高齢化率 35.1%（2017年4月末現在）

※2047年の推計

人口 769人

高齢化率 40.7%

2012年から2017年の年代別の人口変動を基にした推計（しまねの郷づくり応援サイトより）



「防災まち歩き」で危険箇所や避難場所を点検

勝部 洋一さん（阿用地区振興協議会会長）



雲南市大東町阿用地区生まれ。鳥根県を退職後、同地区にUターン。集落支援員として阿用地区振興協議会の活動に参加し、今年4月から会長。67歳。



「防災まち歩き」を基に防災マップを作成

最優先で命を守る「全員で逃げよう」

自主防災の取り組みのきっかけは

近年の度重なる災害発生への不安が背景としてありますが、きっかけは事務局スタッフとして参加した4年前の雲南市防災地域円卓会議です。2006年7月豪雨災害で住民の方が亡くなられた例を聞き、危機感が募りました。「住民の命を守る取り組みが必要だ」そんな思いが出発点でした。

具体的にどのように進めましたか

各地の災害報道で気になるのは「自分は大丈夫」と思うゆえの避難の遅れです。阿用でも土砂災害危険箇所の有無や若い世代の人数などにより地域の実情は異なり、意識に温度差があります。実効的な取り組みには身近な自治会単位の自主防災組織が必要と考えました。振興協議会に設置した防災委員会が市や関係団体との緊

どのように活動を広げていますか

活動や理解を加速させたのは実践です。昨年9月の台風18号時は全自治会で避難所が開設されました。住民に「まず逃げよう」「一人でなく誰かと一緒に」という意識ができていたことがスムーズな動きにつながり、実際の避難体験で自治会間の温度差も縮まったと感じています。一方、課題や改善点も見えてきました。

どのような課題ですか

避難準備態勢に入る時期、避難所の運営、防災資材等の備蓄・管理などです。避難を経験した住民から「危険な夜間の避難は避けたい」「早い段階で避難したい」という意見が出て、今年7月には「避難準備情報」が出る前に、各自治会に避難所開設を呼びかけ、3自治会で自主避難がありました。若い世代が手薄になる日中の対応として、消防団との連携や、避難所開設マニュアルの策定も進めています。いずれも市などとの連携調整が必要だと考えています。

どんな未来を描いていますか

防災には地域づくりの課題が集約されています。見守り活動など住民のつながりを深めることが不可欠です。減災のために山を荒廃から守るとともに河川管理の活動も必要という声も出ています。防災が日常の意識として浸透するよう、研修会や避難訓練も含め、できることから実践を重ねていきたいと思っています。

また、防災に限らず後継者育成は課題です。働き盛りの20～50代は振興協議会の活動に関わりが薄くなりがちで、中心を担うのは60、70代。PTAとの意見交換会や小学生等の地域学習など地域への関心を高める活動も始めるなど、後継者の育成活動を強めてまいりたいと思います。

【これまでにいただいたご意見】

無理せず楽しみながらの高齢者の見守り活動、とてもすてきな活動だと思います。高齢者や障がい者が暮らしやすい地域は、若者や障がいのない人にとっても住みよい町。災害時などさまざまな場面でこの取り組みは生かされると思います。（50代女性）

「小さな拠点づくり」のお問い合わせはこちら

【東部地区】鳥根県庁しまね暮らし推進課 TEL:0852-22-5065

【西部地区】西部県民センター地域振興課 TEL:0855-29-5514

【隠岐地区】隠岐支庁県民局地域振興課 TEL:08512-2-9611